

林野庁 令和4年度林業イノベーションハブ構築事業
林業イノベーションハブセンター（森ハブ）
第1回専門委員会 議事概要

作成日：2022年7月12日

日時	2022年7月12日 13:30～16:00
場所	日比谷国際ビル コンファレンス スクエア 所在地：東京都千代田区内幸町2丁目2-3 日比谷国際ビル8階
議題	➤ 開会 (1) 挨拶 (2) 委員紹介 (3) 座長選出 ➤ 今年度の林業イノベーションハブ構築事業について ➤ テーマ別の実施方針について (1) 新技術／総合戦略 (2) 機械開発 (3) イノベーションエコシステム形成 ➤ 閉会 - 今後のスケジュールについて
資料	資料1－1 林業イノベーション現場実装推進プログラム（令和4年7月アップデート版）（案） 資料1－2 （参考）各種政府戦略の位置づけ 資料1－3 令和4年度の事業概要 資料2－1 テーマ1 新技術／総合戦略 資料2－2 テーマ2 機械開発 資料2－3 テーマ3 イノベーションエコシステム形成 資料3 今後のスケジュール

【議事概要】※資料記載事項は割愛

1. 開会

- (1) 挨拶
- (2) 委員紹介
- (3) 座長選出

➤ 立花委員を選出

2. 今年度の林業イノベーションハブ構築事業に対する意見

- 昨年度も含め、林業イノベーションハブ構築事業では「技術」に着眼して進めているが、技術だけでイノベーションなのかという疑問はある。技術だけではなく、林業の業務自体の見直し（BPR）、法制度の見直しも併せて行わないとイノベーションにならないのではないかな。
- 社会情勢の変化を受けて、化石燃料の供給が不安定になることが予想される中で、燃料電池か電動化へのシフトの必要性が高まってくるのではないかな。メーカー各社も電動化を進める開発を行っている。このような流れを踏まえ、電動化の検討についても議論するべきではないかな。
- 林業イノベーションの課題の記載があるが、技術からではなく、これらの課題を解決するためにどのような技術が必要かというバックキャストिंगの観点で整理する必要があるのではないかな。そのように整理しないと前進しないのではないかな。また、課題の洗い出しは網羅されているのか。
- 林業労働力の確保については、政府や林政審議会では今後の方針について議論を進めている。次回、関連する情報は共有いただきたい。

3. テーマ別の実施方針に対する意見

(1) 新技術／総合戦略

- 新技術／総合戦略と記載があるが、林業課題の「課題」を認識する上で、総合戦略を位置づけしないと、課題が出てこないのではないかな。また、テーマも新技術／総合戦略とならないのではないかな。
- 技術リストの項目について、技術の特許の状況を明記しておく、コーディネーターにとってより分かりやすい資料になるのではないかな。
- 林業のデジタル化を実現するには、マスタデータの整備が重要になる。マスタデータは国が管理すべきであると考えます。
- 林業イノベーションの推進に向けては、デジタルを理解できる人材を林野庁に配置することも重要である。
- 環境省においては、2030年までは実装フェーズの技術をターゲットにし、2050年までは研究・開発フェーズの技術をターゲットに支援を行っている。森ハブにおいても同様の考えが必要ではないかな。
- アウトカム指標の検討にあたっては、アウトカム指標の洗い出しで完了するのではなく、アウトカム指標から更なる新しいアウトカム指標が作られることを念頭に、検討を進めていただきたい。また、課題とアウトカムは表裏一体（インタラクティブな関係）である点にも留意いただきたい。
- 海外におけるアウトカム指標の調査にあたっては、AUTM（大学技術マネージャ協会）の取り組みがあり、それを参考にするのがよい。

(2) 機械開発

- ヒアリング候補先について、電動化や無人化に向けて開発を行っている国内外のメーカーも候補としていかがか。
- 従来のハーベスタのメーカー企業について、伐採の自動化を見据えた形で選定して欲しい。再造林分野での機械化も将来的に視野に入れていただきたい。
- 架線系の事業体もヒアリング候補先を含めるのはいかがか。
- ヒアリング先は、本日の意見を踏まえ、事務局で検討していただきたい。

(3) イノベーションエコシステム形成

- 今年度は、まずは実績を作りたいということで、地域選定を決め打ちでできると思うが、1つの事例が出来たとしても、来年度以降に継続していく際に公募等の方法をとるのであれば、森ハブ事務局の支援体制が異なると思う。また、大方事務局だけで森ハブの支援体制を構築していくということだが、異なる方法となるとハードルが高くなることもあると思われるため、別途対策を立てる必要が生じる可能性がある。
- 「山林域での通信環境構築」に関して、様々な通信方式を対象にするのが良いと考える。
- リスト候補地域は人工林地域が多い印象がある。もう少し多様性があると事業として面白い。
- 地域のリストアップの選定基準について、手段と目的をもっとはっきりすべきではないか。「林業イノベーションハブの構築」という手段ではなく、「林業により地域活性化を推進する」という目的をしっかりと共有できる地域を選定した方が良い。コーディネーターについては、地域の中にいて、かつ中の人と付き合える人を選ぶことが大事である。
- まずコーディネーターを選んだうえで彼らが得意な地域を攻めていくという方法と、まず地域から選んでいくという方法の2つのアプローチ方法がある。双方からの検討が必要である。
- コーディネーターのヒアリングの際に、「あなたが思う一番のコーディネーターは誰か」と聞くのが有効な手段である。
- 林業分野は外から閉じている印象があるが、実際もっと開けるはずである。林業で発展した技術を他に応用する、他分野の技術を林業に取り入れる等、視野を広げることが重要である。
- 全体として、イノベーションという高い目標を掲げたうえで、どのように実現するか、バックキャストで検討していくことが必要だと感じた。

4. 閉会

- 今後のスケジュールについて、事務局から説明。

以上